
藪ン中

なんじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

藪ン中

【Nコード】

N2866A

【作者名】

なんじ

【あらすじ】

快斗はなぜ魚嫌いになったのか？青子が鋭く迫ります（^^）

黒羽快斗は語る

なんだあ？

魚がどうして嫌いかだつてえ？

別にいいじゃねえか、そんな事どうだつて。
体にいい？

魚喰わなくつても人間死にやあしねえんだよ。

ああ、もう、うるせえなあ。

判つたよ。

本当は、思い出すのも嫌なんだけどよ、

俺が、魚を、でえっ嫌いになつたわけを教えてやるよ。

アレは、俺が、3歳くらいの時かな。

親父のショートの練習場所に遊びに行つたんだ。

珍しいもんが一杯ある中に、でっけえ水槽があつた。

そうそう、脱出マジックに使うあれだよ。

そいつの中に見たことの無い魚がうじゃうじゃいてな。

無邪気な俺は珍しい魚に

おやつに持ってたパンをやろうとして

そのまんま水槽に落っこちまつたんだ。

おい、笑つたな。

ああそうさ、もちろん、まだ泳げなかったから溺れたさ。
でも、溺れたから、魚が嫌れえになったわけじゃねえよ。
その水槽にいた魚って言うのが「ピラニア」だったんだよ。
そう、アマゾン川で牛をあつという間に
骨にしちまうって言う肉食魚さ。

何で、そんなもん？

親父が、新しい脱出ショーで使うつもりだった・・・

らしいけど、今となっちゃ判らん。

とにかく、親父が、すぐにすくい上げてくれて助かったがな、
ピラニアの奴、水から出されても

俺の体に山ほど喰い付いて離れようとしなかったんだぜ。
そんな経験をした俺に、お前は魚を喰えと、言うのかよ。

寺井 黄之助は語る

ぼっちゃまの魚嫌い。

誠に重症でございます。

ピラニア？

いえ、そんな話は、盗一様から伺った事は
ございませんが・・・。

ぼっちゃまが、魚嫌いになったのには

ちゃんとした理由がございます。

これは、誠に私の思慮の無さから、としか言い様の無い事で、
ほんに、この寺井、後悔してもしきれませぬ。

そう、あれは坊ちゃまが、まだ3歳くらいの時だったでしょうか？

盗一様は海外公演へ出かけられました。

いつもなら、私も一緒にするのですが、

その時は、奥様が、体調を少々崩してご入院されました。

そこで、私は、盗一様より、奥様とぼっちゃまのお世話をしよう申し付かっておりました。

さて、ぼっちゃまとお家で過ごしていたある日の事です。

盗一様の後援者の方から、

大きなマグロが届けられたのでございます。

誠に見事なマグロでして、

マジシャン仲間、隣近所に配っても

まだ余りあるほどのものでした。

はい、私が解体いたしました。

青子様も、お父様と一緒に見物においででしたよ。

ああ、覚えてはおられませんか。

ぼっちゃまと一緒にと

目を輝かして私の包丁さばきを

ご覧になっておられました。

さて、その晩の事。

夕飯のおかずは、マグロのお刺身でした。

ぼっちゃまは大喜びでマグロを召し上がっておられました。

そう、いささか、3歳の子供が食べるには多すぎるほど。

私は、止めようと致しました。

奥様がいらつしやれば、必ずお止めになったでしょう。

しかし、実に哀しい瞳でこちらを見つめられると

この寺井どうしても、止める事が出来ず

ぼつちやまが満足なさるまでお刺身を差し上げたのでございます。

その結果、

真夜中、ぼつちやまは、激しい腹痛と嘔吐で、七転八倒の苦しみ様。

私は、急いで、病院に運びましたが、

もしぼつちやまに何かあれば、この皺腹搔つ切るつもりで

一晩中病院の廊下ですごしました。

幸い、病院の方々のご尽力のおかげで

お体は、見る見る良くなったのですが

ぼつちやまは、それ以来、魚というものを、食べるのも

見ることさえ、拒絶されるようになってしまわれたので

ございます。

本当に、私の浅はかさから、ぼつちやまにも、

奥様にも、青子様にも、甚大なご迷惑を・・・

え？

しかし、将来お家でお食事を作るのにも、

魚が使えないとなるとメニューが・・・。

ったあ・・・。年寄りを力いっぱい

はたかないでくださいませ。

そうでございます。

青子様のおっしゃるとおりでございます。

ほほ、若いという事は・・・

うつ・・・、御願いですから、背中を、はたくのは

おやめくださいませ・・・。

黒羽快斗の母親は語る

マグロの刺身にあたった？

ウーン、そんな事があつたかしらねえ。

寺井さんは、つまらない事を大げさに記憶するくせがあるから。

快斗の魚嫌い？

理由は、はつきりしてるのよ。

ピラニア？

違うわよ、絶対。

え？どうして、快斗が嘘ついたかつて？

そりゃ、ほんとの理由が恥ずかしくって話せないからに、
決まってるじゃないの。

でも、青子ちゃんには教えてあげる。

快斗が3歳くらいだったかしら。

今でも、だけど、あの子はいたずらが好きでね、

あの子の、マジックの道具を持ち出しては

めちゃくちゃにしてたのよ。

何回怒られても、こたえなくって。

ある日、そう、子供の日の近くだったわ。

あの子が、幼稚園で園児に見せるマジックのために
特別に準備していた、『鯉のぼり』、

それを持ち出して、どろどろに汚してしまったの。

そこで、あの子は快斗に言った。

「今度、この『鯉のぼり』にさわろうとしたら、

こいつは、お前を食べてしまうぞ。

私が、そう、魔法をかけたからな」

魔法、って言うのは、快斗を怖がらそうとしたあの人の嘘だったんだけど……。

それから、あの人と、寺井さんは、幼稚園での、子供の日マジックショーの打ち合わせで、出かけていった。

快斗も、自分の部屋で大人しくしてるな、と思ってたら、凄まじい泣き声で、マジックの備品倉庫から泣きながらこころがり出てきたの。

その体には、鯉のぼりがすっぽり、はまり込んでた。

うーん、その場を見ていないからどうしてそんな事になったのか私にも良くは、わからないんだけど。

多分、あの人の嘘だと思って、大事にしまいこまれた

鯉のぼりに、性懲りもなく手を出そうとしたのよね。きっと。

ところが、快斗がいたずらしようとしたら、たまたま鯉のぼりが上から降ってきたのかしら。

で、ばさりと上からかぶってしまった、と。

快斗は、必死で、鯉のぼりから逃れようとするんだけどどうしても、抜け出ないのよ。

一見普通の鯉のぼりに見えるけど

中には、色んな仕掛けがしてあるから

力任せに、ひっぱって、壊してしまうと

公演に、間に合わなくなるし。

快斗は、暴れまくって大人しくしてくれないし。

苦勞して苦勞して、何時間もかかって、

私は快斗を鯉のぼりから引きずり出したの。
それからよ、快斗が、お魚がだめになっちゃたのは。
あ、快斗に私から聞いたなんて、言っちゃダメよ。

小泉紅子は語る

黒羽君？

そう、魚が嫌いなの。

理由？

そうね、良かったら占ってあげましょうか。

不思議？

これは、わが一族に代々伝わる水晶玉でね、
私の知りたいことを何でも教えてくれるのよ。

・・・そう、なるほどね、そんな事が・・・。

ええ、もちろん教えてあげるわ。
でもその前に。

中森さん、今日のお弁当のおかずは？
塩鮭。

だったら、このお話はお弁当のあとの方がいいわね。
え？

だってお弁当が食べられなくなったら、中森さん困るでしょ。

そう、そうね。

こういうことは、本人がしゃべる気になった時に
本人から、聞くのが一番よ。

じゃあ、中森さん、ごきげんよう。

面白いお話聞かせていただいて感謝するわ。

（終り）

（後書き）

私も、ぜひ本当の理由が知りたいものです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2866a/>

藪ン中

2010年11月16日08時34分発行